

## 才能は、覚醒できる

ゼロからオリジナルをどう生み出すか。

浅草で7年間研鑽を積んだ靴職人三澤則行の前に立ちはだかったのは、果てしなく高い壁だった。高品質な靴は作れる。だが、その先へどう進めばいいのか。その壁を乗り越えるために、彼は方向転換を決意する。これからは芸術を集中して学ぼう、しっかりとした目的意識を持って、と。

そして、旅立ったのは、オーストリアのウィーンだった。靴といえば「本場」のイタリアやイギリスではなく、靴づくりにおいて、非効率的で、独特な技術が残っている地を選んだ。その方が自分のスタイルに合っていると感じたからだ。そして、オーセンティックな芸術があふれる環境でアートに浸り、美術館や芸術家のアトリエに通いつめて、さまざまなものを自分にインプットした。



金彩革という伝統技法による優美と驚愕。「Banner Lining Boots」

「自分を客観視することは大事なことです。僕はかつて、写実の絵しか描けなかった。何かをアレンジもできる。でも、なんでもいから描けと言われると、止まってしまう。器用ではあるけれど、天才ではない。このままでは活躍できないと思った。だから徹底的に勉強を始めました」。

三澤は、帰国後、さらに工芸家や芸術家に弟子入りし、2次元の絵画的な表現を学ぶ。靴づくりという3次元で研鑽したキャリアと融合し、靴づくりの高い技術を有するアーティストとして踏み出した。そして、既成概念に一切囚われず、縛られない彼の発想が、革を次々と変換させ、目を見張る靴のアートを生み出したのだ。